

チューリップ

「チューリップが咲き始めました。

昨年の秋、市の広報紙にのせた私たちのお願いに協力くださいまして、本当にありがとうございます。でした。

球根代をプレゼントしていただいたおかげで、チューリップ祭りは成功しそうです。

ぜひ、ご覧いただけたらと生徒一同、お待ちしております。

農業高校は三月の最終週、校庭、中庭を市民の皆さんに開放しています。二組 前田」

昨日、私の携帯に、一通のメールが届いていました。

送り先は、市内のはずれにある農業高校。

前田さんは女の子なのか、男の子なのか、最後までわかりませんでした。

でも、何回かもらった前田さんからのメールで、私の辛さは少し減りました。

まだ満開のチューリップは見えないけれど、高校の庭いっぱい咲くチューリップを私は想像しました。

私が申し込んだのは赤いチューリップ。

ぜひ、赤いチューリップのところから見ることになら

しよう。

昨年、私は大切な店を失いました。

それまで築いてきたものもたくさん失いました。

生活のために朝から晩まで働くおかげで、自暴自棄になることはありませんでした。

泣いている暇さえなかったのです。

でも、私自身はどこかぼんやりしていました。

自分が辛いのかどうかさえ、わからなくなっていました。

そんなときです。

市の広報紙に、農業高校からのお知らせが載っていました。

農業高校はこれまでも、花で学校を飾っていたようですが、新しい企画を立て、市民からの寄付を募っていました。

学校に千円寄付すると、学校がチューリップの球根を買い、育てるといのです。

そして、春に学校をチューリップでいっぱいにして、市民に開放し、お花畑を味わってもらおうというものでした。

生徒からのメッセージに、私の目が留まりました。

「嬉しかったことのある人はぜひ、その気持ちを花に

託してください。

辛かった人は、悲しみをチューリップに変えてください。

私たちが皆さんの気持ちを大切にします。

来年の春を楽しみにしてください。

ぜひ、「ご寄付をお願いします」

私は花が好きでした。

お財布に十円玉しか残っていない若い時でも、一輪ざしに花を飾りました。

鉢植えも好きでしたが、切り花もよく買いました。

店にも、いつも花がありました。

それなのに、店を失ってからは、私は花を買うことをしなくなりました。

花を一本買うくらいのお金はあつたはずですが。

農業高校の生徒のメッセージは、私の心に沁みました。

広報紙にのっていた農業高校のメールアドレスに、

私は寄付の申し込みをしました。

そしてすぐに、最初のメールが届いたのです。

球根を植えた植木鉢の写真がついていました。

私の名前のシールが、鉢に張ってありました。

「ご寄付、ありがとうございます。」

さっそく、赤いチューリップの球根を植えました。

鉢には二個植えました。

幸せなら二倍に、辛いことだったら二つに分かれて減るように、と考えました。

それ以外の球根は、地面に植えてあります。二組
前田」

前田さんは、今時の女子高校生なのだろうか、それとも腰パンの男子高校生なのだろうか、と私は想像しました。

先生に、文面を作ってもらっているのかもしれない。

ただ、そんなことがどうでもいいと思えるくらい、私の心のどこかに、嬉しさが育っていました。

次のメールは、球根から芽が出たときでした。

「なかなかメールを出せなくてすみません。二組前田」とありました。

芽を出せなくて、と私は読んでしまい、思わず笑ってしまいました。

預かった球根を育てるのは、かなりの緊張感があるに違いありません。

私の球根を大切にしてくれている二組の前田さんたちに、私は心からありがとうという気持ちにな

りました。

三度目のメールには、写真はついていませんでした。「合計一万個の球根を植えました！！」みんなで、すごい！！と興奮しました。ほとんどのチューリップが元気に育っています。楽しみにしてもらうため、今回は写真は添付しません。

チューリップ祭りときは、必ず連絡をします。ただ、本当に花が咲くか、心配になるときもあります。二組 前田」

私の担当は最後まで二組の前田さんでした。返信しようと思いつながら、結局私は、前田さんに連絡をすることはありませんでした。

今週の週末、私は農業高校に行くつもりです。天気予報を調べたら、週末は晴天とのことでした。前田さんのおかげです。